

健康優良児

スポーツ優秀選手など 一九八名を表彰

市と教育委員会で、三月十五日、市内の小・中学生のうちから、健康優良児など一九八名の児童・生徒を表彰しました。

健康優良児

この表彰は、市内の小・中学生で、心身ともに健やかに育ちスポーツに優秀な児童・生徒の中から、他の範となる者を表彰し、一般の関心を高めるとともに、より一つそう健やかで優秀な児童・生徒を育てることを目的としたもので、市町村単位の表彰としては、本市が県下で初めてのものです。

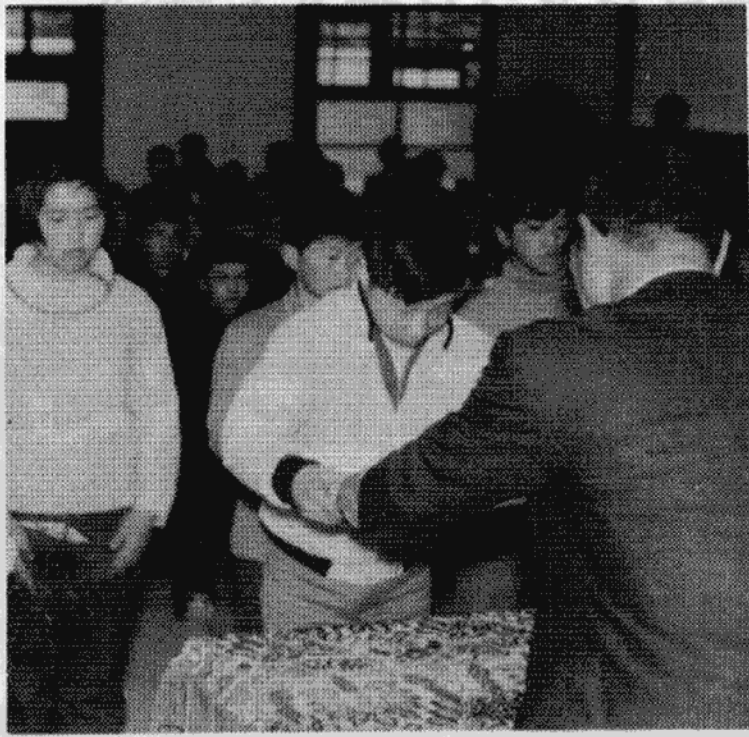
【受賞者名】

敬称略

▽日光小 柳生安優、湯沢匡
福田倫夫、本田良子、柳原美美子、大貫美奈子。▽清滝小 宮崎寮、福田博、菅野敏子、齋藤智子。▽野口小 手塚文弘、酒主正美。▽山久保小 柴田晋良。▽中宮祠小 神崎信彦、鈴木順子。▽所野小 竹沢誠一、小池智子。▽小来川小 佐藤誠寿、根本君江。▽安良沢小 齋藤毅手塚和夫、松本民子、阿波孝子

スポーツ優秀選手

▽日光中 石黒享、佐藤文子
小林善和、柴田文彦、伊東亮子
関口宏文、阿部恭子、赤岡良一
星晴美、佐藤昭子、酒井まり子
竹末道夫、齋藤悦夫、谷田貝正宣、金沢宏一、星野恭子、山本恵子、小林啓二、手塚直子
▽中宮祠中 半田宏、浜中明美、高島孝夫、大久保秀之、小林京子、小出久吾、小林英夫、小平昌代、木下一幸、牧野光宏、高林正男。
▽東中 大宮光弘、植田好江、齋藤孝史、宮坂修二、小幡高子、阿久津秀雄、稲葉悦子、貴船礼子、竹谷次正、沼尾まり子、松本淳、佐々木悦子、吉川すみれ、宇佐美史子、井熊英之、湯沢秀行、椎貝利明、湯沢静、片岡理恵子、齋藤広美。



市役所大会議室で行なわれた表彰式

体育優秀児童

▽日光小 二十名、▽清滝小 十七名、▽野口小 六名、▽山久保小 三名、▽中宮祠小 六名、▽所野小 六名、▽小来川小 六名。▽安良沢小 十名

体育優秀生徒

▽日光中 十六名、▽中宮祠中 四名、東中 二十一名、▽小来川中 四名。

市史編さん

だより

27

四月の市史

徳川家康公の神柩が

駿河から日光山に着く

元和三年四月四日

家康公は、元和二年(一六一六)四月十七日、急病のため、駿府で亡くなりましたが、公の遺命により、靈柩を日光山に祭るため久能山を出発したのは、元和三年(一六一七)三月十五日のことです。

天海僧正、土井利勝、松平正綱をはじめ、板倉重昌、秋元泰朝らの重臣が率いる三百余騎、雑兵千人からなる行列は、春の光を浴びながら、おごそかに、同年に竣工した日光東照社をめざし、四月四日未の刻(午後二時)日光山座禅院(いまの輪王寺本坊)に到着、四日後の八日に、神柩を奥院の石窟の中に安置しました。東照宮千人武者行列はこの時の行装をそのまま取り入れたものです。

俳人「芭蕉」

日光に来る

元禄二年四月一日

芭蕉が門人、曾良をつれて

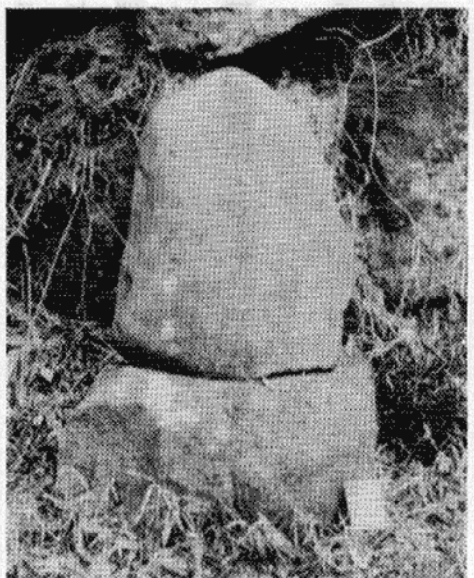
「奥の細道」の旅に出たのは、元禄二年(一六八九)三月二十七日のことです。

同年四月一日、正午ごろに日光に着いた芭蕉は、東照宮を拝観して、その夜、上鉢石宿の五左衛門方に泊まりました。

翌日、芭蕉は裏見の滝、かんまんの淵を見物し、「ほととぎすうらみの滝のうらおもて」の一句をよみました。

日光をよんだ句として知られる「あらたふと青葉若葉の日の光」の句は、現在、その句碑が大日堂(安良沢小学校下)にあります。この句の初案が「あらたふと木の下暗も日の光」であったことが、門弟曾良の俳諧書留から知られています。

見物を終わつた芭蕉は、同日正午ごろ上鉢石宿を出立し、白大日堂に建てられていたふと...の芭蕉の句碑



河に向かったとのこと。

弥生祭のこと

二荒山神社の弥生祭は、千二百余年の伝統をもった祭儀であり、明治六年の改暦前は名前のとおり、三月一日、二日に行なわれていました。

町内から花屋台が出るようになったのは、江戸時代からといわれ、慶長十八年(一六一三)天海僧正が第五十三世日光山貫首となつてから、盛んに成り、僧正は各町に神賑に奉仕すべきものを「若者」に定め、規約を授けました。

これが現在、各町にある「青表紙」といわれるものです。祭儀係りの若衆の制度は、今でも厳然として残っており、格式どおりの祭儀が行なわれるので、規約をめぐる争いなどが起ることから、ケンカまつり、ゴタまつりなどといわれるほどの祭儀です。